



R4大見小学校だより 第7号

「空はるか」

令和4(2022)年7月13日(水) 発行者:白井 基



讃岐源之丞保存会の方のお話から学ぶ



5年生は毎月1回、讃岐源之丞保存会の方から人形浄瑠璃を教えていただいています。

7月7日(木)には、保存会から座長さん他2名の方をお招きし、「讃岐源之丞の人達はなぜ人形浄瑠璃を続けてきたのだろう」という質問への応答や子どもたちに望むことなどをお話ししていただく機会をもちました。

子どもたちは、続けてきた理由を「伝統を守りたいから」「楽しいから」「知ってほしいから」と予想していました。保存会の方からは、自分から好きで保存会に入ったのではなく勧められたり誘われたりして入ったこと、最初は難しくてできるかなあと感じていたけど人形遣いや浄瑠璃を練習しているうちに上達してうれしくなって続けてきたこと、上演会でみてもらうとまた上達することなどをお話ししていただきました。話を聞いた5年生は「予想と違って、最初難しいと思ったのは自分と同じだった」「最初から楽しかったわけじゃなく、やっているうちに楽しくなってきたことがわかった」と感想を書いていました。

9月から人形遣いや太夫の語り、鳴り物などを習って、みんなで「えびす舞」をお披露目することをめざしています。楽しく、有意義な活動になることを期待しています。

モモの会の読み聞かせで大見の民話を聞きました



月に1回、モモの会の方が読み聞かせに来校してくれています。

7月1日(金)には、2、3年生合同で読み聞かせを聞きました。

この日は、3つのお話を大きな絵本や紙芝居

をめぐったりテレビ画面に映したりして読んでくれました。中でも「久保谷のあいぞうさん」というお話は大見に伝わる昔話ということで、子どもたちは興味津々に聞いていました。

大見地区や三野町には、昔から伝わるお話がまだまだあるそうです。ふるさとのことを知り愛着を持つためにも、これからもそんなお話の紹介をお願いしています。